

Study



Abroad



Program

CONTENTS

英文学科スタディ・アブロード・プログラムについて .....	1
出願選考について .....	1
SA プログラムの単位認定について .....	2
出発までのスケジュール .....	3
University College Dublin .....	4
Fontbonne University .....	7
SA プログラム参加体験記 .....	9
SA プログラムのサポート体制について .....	15

## スタディ・アブロード (SA) プログラム

英文学科のみなさん、在学中に英語圏に留学しませんか。

密度の高い英語の授業と異文化体験によって、

世界に通用するコミュニケーション力と適応力が身につきます。

英文学科には3つのSAプログラムがありますが、目的はそれぞれ異なります。

自分に合ったプログラムを選んで出願してください。

### (1) 夏期 SA プログラム (University College Dublin)

アイルランド共和国の首都ダブリンの名門大学 University College Dublin (UCD) での、3週間の語学研修プログラムです。英語圏で生活し、他国からの留学生と机を並べて勉強することによって、英語力を集中的に身につけ、英語文化への理解を深め、帰国後の勉学意欲を高めることが目的です。

### (2) 秋学期 SA プログラム (University College Dublin)

夏期 SA プログラムと同じ UCD での 12 週間か 22 週間程の語学研修プログラムです。長期にわたって英語圏で生活し勉強することによって、さらなる英語力アップをめざします。また、ホームステイで現地の家族と交流することを通して、コミュニケーション能力を高め、異文化理解を深めることも、大切な目的です。

### (3) 秋学期 SA プログラム (Fontbonne University)

アメリカ合衆国ミズーリ州セントルイスにあるフォントボン大学で 16 週間か 24 週間程、正規の学生として、英語だけでなく、さまざまな分野の専門科目を学びます。アメリカ人学生と一緒に専門科目を学んだり、現地の人々や他国からの留学生と交流したりすることにより、英語力だけでなく専門的知識を身につけ、同時に異文化理解を深め、コミュニケーション能力を高めることを目指します。自国の文化への興味と理解を深め、国際的な視野を持つきっかけにすることも、目的の一つです。

### ●出願資格●

- 英文学科に在籍し、所定の審査を通過した学生
- 心身ともに健康で、海外での生活に順応できる者
- SA 出発までに実施される説明会やガイダンス、帰国後の報告会などに参加できる者

### ●選考方法●

夏期 SA プログラム (UCD) と、秋学期 SA プログラム (UCD とフォントボン大学) とでは、選考方法が異なります。

#### ① 夏期 SA プログラム (UCD)

応募者が募集人数を超えなければ、原則として、書類だけで選考します。

#### ② 秋学期 SA プログラム (UCD とフォントボン大学)

応募人数に関わらず、両方とも書類選考と面接試験をおこないます。書類選考では大学での成績や英語力を中心に、面接試験ではコミュニケーション能力、勉学意欲、志望動機などを中心に、長期の留学に適しているかどうかを判断します。

※出願に際しては、コースにより出願資格や選抜方法が変更になることがありますので、詳しくは秋に実施される SA 説明会に参加してください。

※選考後に参加をキャンセルした場合、キャンセル料がかかる場合があります。

## 単位認定

英文学科が実施する SA プログラムは2 カ国3 コースからなります。

いずれも、現地プログラムで所定の評価を得て、  
帰国後に実施される面接や報告会などに出席することにより、  
本学の卒業所要単位として認められます。

### ●University College Dublin (UCD)

2つのプログラム（夏期・秋学期）は、いずれもユニヴァーシティ・カレッジ・ダブリン（UCD）の語学研修機関である UCD Applied Language Centre の English Language Courses のプログラムを受講します。

#### <夏期 SA プログラム>

8月に約3週間のコースとして開講される Summer Program に参加します。帰国後、所定の手続きや審査を経て、英文学科「選択必修 B」に配置されている「海外英語演習」4単位が認められます。参加者は必ず春学期の履修登録期間内に、「海外英語演習」を履修登録する必要があります。

#### <秋学期 SA プログラム>

約12週間か22週間のコースを受講します。語学力向上のための授業が中心です。そのほか、社会や文化などに関する科目も用意されています。

帰国後、各自が現地で履修してきた科目を、文学部教授会で審議のうえ、認められた場合は、同系統の専門科目「SA 認定科目(A・B・C)」または ILAC 科目「English 3-II」に読み替えて卒業所要単位となります。認定単位数の上限は22単位です。

※コース内容は毎年変更されます。

### ●Fontbonne University

フォントボン大学では、正規課程の授業と Intensive English Program(通称 ESL コースと呼ばれている英語集中授業)を履修することができます。

正規課程の開講科目は、文化、ドラマ、メディア、ジェンダーなど、幅広いジャンルにわたっています。英文学科教員のアドバイスを受け、自分の希望と英語力を考慮し科目履修をしていきます。帰国後、フォントボン大学での修得単位を文学部教授会で審議のうえ、認められた場合は、同系統の専門科目「SA 認定科目(A・B・C)」または ILAC 科目「English 3-II」に読み替えて卒業所要単位となります。認定単位数の上限は22単位です。



## スケジュール

### 選考年度

10～11月 SA説明会

10～11月 出願期間

12～1月 選考および結果発表

### 実施年度

3～5月 ビザ・渡航説明会

7～8月 危機管理ガイダンス・  
直前ミーティングほか

8月 出発

(※夏期 SA に参加希望の1年生は4月に説明会、  
5月に出願・選考)

## 参加決定後～SA出発までの準備

### ① パスポートの取得（説明会で指示）

参加決定後、パスポートは各自で取得します(取得費用は各自の負担)。すでにパスポートを持っていますが、SA 期間前や期間中に有効期限が切れる場合は、更新手続きが必要です。

### ② SA先大学入学願書等必要書類の作成・提出（選考年度の2月以降）

SA先大学への入学願書を記入してSA課に提出します。その他SA先によって必要な書類がありますので順次、準備を進めていきます。

### ③ ビザ・渡航説明会（実施年度の3月～5月）

SA参加にあたって、学生ビザの取得が必要です。ビザ取得に必要な書類の説明をするガイダンスとなります。各種証明書や書類などを各自で準備する必要があります。

### ④ 先輩の体験談（実施年度の3月～5月）

昨年度SAに参加した学生から、SA先大学の様子や、現地での具体的な生活状況や授業の様子などを聞くことができます。

### ⑤ 危機管理ガイダンス（実施年度の7月頃）

留学中に思わぬアクシデントに見舞われた場合、どのように対処すべきかについて、海外旅行保険の使い方も含め詳しい説明をおこないます。

### ⑥ 英文残高証明書（実施年度の4月頃から）

各国の入国管理局の指示により、米国の留学ビザ取得の際には、金融機関が発行する本人名義の英文の残高証明書が必要となります(4月の現地への入学申込書提出の際にも必要)。これは留学中の支払能力を証明するもので、2015年度は150万円以上が必要となりました(証明書発行後の預金移動は制限されません)。詳しくはSA説明会やガイダンスで説明しますが、余裕をもった資金準備をお願いします。

### ⑦ SA費用の支払い（実施年度の7月頃）

各プログラムのSA費用と奨学金はそれぞれ5、6、8ページに今年度概算を記載してあります。参加費用は為替レートの変動により、大きく変わることがありますので、余裕を持った資金準備をお願いします。7月頃、保証人宛への書類送付をもって最終的な金額確定とさせていただきます。奨学金は所定の申請後にお振込、もしくは費用と相殺します。

### ⑧ 直前ミーティング

出発の約2週間前におこなわれるガイダンスで、当日の集合場所を含め、SA 出発に向けた最終案内をします。

## University College Dublin

### 基本情報



【所在地】 アイルランド ダブリン州ベルフィールド

【受入機関】 UCD Applied Language Centre

【対象】 夏 期：英文学科の1年生以上

秋学期：英文学科の2年生以上（応募は1年生以上）

【参加人数】 夏 期：25名以内 秋学期：10名以内

【留学予定期間】 夏 期：8月上旬～8月下旬（約3週間）

秋学期：①9月上旬～11月下旬（約12週間）

②9月上旬～3月中旬（授業は約22週間）

（留学期間は変更になる場合があります。）

【宿泊施設】 大学内の寮またはホームステイ

### ●大学概要●

1854年に創設されたUCDは、アイルランドを代表する大学で、国際交流や留学生教育に豊富な経験を持っています。この優れた教育施設で、さまざまな国籍の学生と一緒に英語とアイルランド文化を学びます。UCDは、ダブリンの中心部からバスで15分ほどの静かな環境にあります。交通の便はよく、治安もとてもよい地域です。

### ●生活環境●

リフィー川の河口にあるアイルランド共和国の首都ダブリンは、豊かな自然と長い歴史を兼ね備えた美しい都市です。多くの文学者を輩出したことでも著名なダブリンの市内には、『ガリヴァー旅行記』の作者ジョナサン・スウィフトゆかりの聖パトリック大聖堂があります。また電車で30分も移動すれば、ジェイムズ・ジョイスの小説『ユリシーズ』の舞台となったマーテロ・タワーも見学できます。さらに足をのばせば、初期キリスト教文化を伝えるグレンダロッホの教会群や、5000年以上前の巨大古墳ニューグレンジにも行けます。



## 【夏期 SA プログラム】

### ●授業の内容と特色●

授業は3週間おこなわれます。はじめにプレースメントテストを受けた後に、クラス分けがおこなわれます。1クラスの人数は14名ほどで、UCDの語学センター(Applied Language Centre)に所属する教員が授業を担当します。月曜日から金曜日まで、午前9時から午後1時までの4時間が教室での学習時間です。初めの2時間が教科書を使用した総合的な英語学習、3時間目がリスニングの補足学習、4時間目がアイルランド文化(文学、歴史、経済、社会、映画、音楽など)の学習にあてられます。午後には名所めぐりやアイリッシュ・ダンスなどの文化プログラムがあります。

#### 【時間割例】(途中に適宜休憩が入ります)

1限・2限 9:00-11:00	トピックについて文法や聴き取りの学習
3限 11:00-12:00	ニュース番組の聴き取り
4限 12:00-13:00	アイルランドの社会について (伝統から現代の問題など)
午後	James Joyce Tower Museum 訪問

※コース内容は変更されることがあります。

### ●宿泊施設●

参加学生はUCDのキャンパス内の学生寮、またはホームステイを選択できます。寮は一人部屋で、トイレ、シャワー、キッチン、リビングが共有となり、自炊です。キャンパスからは市内行きのバスが出ており、ダウンタウンにすぐ行くことができます。

### ●費用について●

下記の費用は2017年度概算です。現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いいたします。

#### ●2017年度概算●(ホームステイの場合)

航空運賃(空港施設利用料など含む)	199,920円
海外旅行総合保険料(全員加入)	7,580円
現地費用(授業料、登録料、宿泊費、送迎費など)※1	203,060円
(1ユーロ=130円で換算(1,562.00ユーロ))	
費用合計	410,560円
文学部奨学金※2	50,000円
参加者負担費用	360,560円

#### ※1 その他の費用について

**食費:** ホームステイの場合、上記料金に食事代(平日2食、週末3食)が含まれます。

寮の場合は、自炊、学食など別途、食費が必要です。

**交通費:** ホームステイの場合、通学バス代(約5千円程度)が別途かかることがあります。

**その他:** テキスト代や小遣いなどが別途必要です。

#### ※2 文学部奨学金について

事前の申請により、上記の費用合計から、あらかじめ奨学金同額を減額してSA費用を請求します。

## 【秋学期 SA プログラム】

### ●授業の内容と特色●

授業は12週間か22週間おこなわれます。はじめにプレースメントテストを受けた後に、クラス分けがおこなわれます。1クラスの人数は14名ほどで、UCDの語学センター（Applied Language Centre）に所属する教員が授業を担当します。月曜日から金曜日まで、午前または午後からの4時間が教室での学習時間です。文法、エッセイの書き方、プレゼンテーション、リーディング、リスニングと英語漬けになります。さらに、週に2日午後2時30分から5時まで、総合的な英語学習の特訓（FCE）があります。帰国前にはケンブリッジ・テストかIELTSを受験します。

#### 【時間割例】

1限・2限 9:00-11:00	文法、エッセイの書き方
3限・4限 11:00-13:00	リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの特訓
午後	総合的な英語学習の特訓

※コース内容は変更されることがあります。

### ●宿泊施設●

参加学生はUCDのキャンパス近くにホームステイします。

### ●費用について●

下記の費用は2017年度概算です。現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。また、SA期間中の法政大学の学費はこのSA費用とは別に必要となりますので、注意してください。

#### ●2017年度概算（12週間）●

航空運賃（空港施設利用料など含む）	236,520円
海外旅行総合保険料（全員加入）	23,270円
現地費用（授業料、登録料、宿泊費、送迎費など）※1	774,670円
（1ユーロ＝130円で換算（5,959.00ユーロ））	
費用合計	1,034,460円
<b>奨学金※2</b>	<b>200,000円</b>
<b>参加者負担費用</b>	<b>834,460円</b>
（22週間の場合には参加者負担総額150万円程）	

#### ※1 その他の費用について

**食費：**上記料金に食事代（平日2食、週末3食）が含まれます。

**交通費：**通学バス代（約5千円程度）が別途かかることがあります。

**その他：**テキスト代や小遣いなどが別途必要です。

#### ※2 奨学金について

法政大学からの奨学金は約20万円を予定していますが、毎年参加者の人数により変動します。申請、支給方法については、別途ガイダンスでお知らせします。

## Fontbonne University

### 基本情報



- 【所在地】 アメリカ ミズーリ州セントルイス
- 【受入機関】 International Affairs, Fontbonne University
- 【対象】 英文学科の2年生以上（応募は1年生以上）
- 【参加人数】 8名以内
- 【留学予定期間】 ① 8月中旬～12月中旬（約4ヵ月間）  
② 8月中旬～3月中旬（約7ヵ月間）  
（留学期間に変更になる場合があります。）
- 【宿泊施設】 大学内の寮

### ●大学概要●

フォントボン大学は、男女共学のカトリック系4年生大学で、学生数は約2,800人、教員は414人であり、学生対教員の比率は7対1と少人数で学びやすい環境です。

### ●授業の内容と特色●

フォントボン大学では英語のレベルにより、履修できる学部正規科目の科目数が異なります。

■正規科目3～4科目を受講する場合：TOEFL iBT 61点、TOEFL 500点、TOEIC 650点、IELTS 5、もしくは英検準1級以上程度の英語の能力を有する者

■ESLコースと正規科目1科目を受講する場合：TOEFL iBT 46点、TOEFL 450点、TOEIC 500点、もしくは英検2級程度の英語の能力を有する者

### 【正規授業の一例】

英米文学や言語学の科目に加え、College Writing Skills, Introduction to Western Civilization, Women and Gender Studies, Argumentation and Debate, Mass Media, Interpersonal Communication, Public Speaking 等から選択できます。

### 【時間割の一例】正規科目を3科目、ESLコースを2科目履修したある学生の時間割

	月	火	水	木	金
9:00-9:50		Public Speaking		Public Speaking	
11:00-11:50	Interpersonal Communication	Advanced Reading	Interpersonal Communication	Advanced Reading	Interpersonal Communication
13:00-13:50	College Writing Skills	Advanced Speaking	College Writing Skills	Advanced Speaking	College Writing Skills

## ●生活環境●

大学のキャンパスは、高級住宅地やワシントン大学などに近い、閑静なたたずまいの中にあります。徒歩圏内には若者たちでにぎわうショッピング通りやスーパーマーケット、カフェなどがあります。

## ●宿泊施設●

参加学生は全員フォントボン大学のキャンパス内の学生寮（2人部屋）に滞在します。寮は清潔で、自動販売機、電子レンジ、レクリエーションルーム、コインランドリー、24時間使用可能なコンピュータラウンジなどが備わっています。シャワーはフロア毎の共同です。キャンパスは校舎外も含めてワイヤレス・インターネット環境です。週に14回程度の食事付で、学内には2カ所の食堂があります。

## ●費用について●

下記の費用は2017年度概算です。現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いいたします。また、SA期間中の法政大学の学費はこのSA費用とは別に必要となりますので、ご注意ください。



## ●2017 年度概算●

航空運賃(空港施設利用料等含む)	323,110 円
海外旅行総合保険料(全員加入)	41,570 円
現地費用(授業料、送迎費用、アクティビティ費用など含む) ※1	1,694,880 円
(1ドル = 120 円で換算)(14,124.00ドル)	
費用合計	2,059,560 円
奨学金 ※2	200,000 円
参加者負担費用	1,859,560 円
(7ヶ月間の場合には参加者負担総額 250 万円程)	

### ※1 その他の費用について

テキスト代や小遣いなどが別途必要です。

### ※2 奨学金について

法政大学からの奨学金は約 20 万円を予定していますが、毎年参加者の人数により変動します。申請、支給方法については、別途ガイダンスでお知らせします。



## 最も身に付けるべきもの

2016 年度 UC ダブリン大学  
岸 鉄人

「三週間という短い期間で、私たちは何をどれだけ学ぶことができるのか。」

出発前、私の頭にはこの考えが常にありました。もちろん、アイルランドの名所や料理を楽しむことも目的の一つではありましたが、それ以上に「自分は三週間でどれだけ英語力を伸ばすことができるのか」に興味がありました。私たちは UCD の English as a foreign language という所謂、語学コースで英語を学びました。クラスは英語の修得度別に分かれていて、私は六クラス中真ん中のクラスでした。そこでは様々な国の人が出て、年齢の幅も広がりました。授業で私は一人のイタリア人女性と仲良くなりました。しかし彼女の英語はイタリア語の発音混じり（語尾が上がる）で、聞き取るのが大変でした。ある授業でペアと協力して、一人が英文を暗記しそれをもう一人に伝え、書き取るというゲームをしました。不安の中、彼女は何を言っているのかサッパリでした笑。絶間なく「データ、データ」と言うので「data」かと思いきや「that」でした…。しかし、二週間も隣にいと、流石に聞き取れるようになってきました。ある時夕食に友人とレストランに行ったのですが、その店の店員の英語がどうも語尾が上がるのです。一瞬でイタリア人だとわかり、訊ねてみると、やはりイタリア人でした笑。この三週間の中でも最も印象的だったのが、ファミリーと少しもめたことです。日本人が大好きそうな英語 TOP3 「thank you, sorry, please」。勿論私も沢山の場面で使いました。日本語に訳すと其々が礼儀正しい言葉です。しかし、夕食の時、これらを複数回使用したところ、ファミリーは彼ら同士目を合わせながら意味深に含み笑いをします。私は怒りを覚え、ハッキリと「これは日本では礼儀正しいことであり、笑われるのは大変不愉快だ！」と伝えました。すると、「これは文化の違いだ」と言われました。一度感謝を伝えた事柄に、何度も「thank」というのは奇妙になってしまうのだそうです。こうして互いの文化を知ることができ、本音を話すこともできました。英語というと、やはり幾らか抵抗があり、自分の思うことがうまく伝えられないと思います。しかし、そこを突破しなければ、いつまで経っても英語力の向上は望めないのではないのでしょうか。勿論、英語力も必要ですが、

やはり度胸がものをいう世界です。私は複数回海外に行ったり、留学経験もありますが、「Are you shy?」と言われている日本人を割と見てきました。日本人はみなそうである、と言われないうちにも、私たちが今身に付けるべきものは英語力以上に、自信と積極性なのではないでしょうか。



## UC ダブリン大学・秋学期 SA プログラム体験記

### 【授業編】

2016 年度 UC ダブリン大学  
品川 未来

UCDでは、一コマ120分の授業を一日2コマ、そして火曜日と木曜日だけそのあとにIELTS対策の授業を1コマ受けました。クラスは初日のテスト結果によって10~15人ずつにレベル分けされ、曜日ごとにリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングに焦点をあてた授業を受けました。どの授業もグループワークを中心に進んでいくものが多く、英語力のなさを実感することも多かったですが、それ以上に異なる国の人達と英語だけで授業を受けるといことが、私にとっては新鮮でとても楽しかったです。また、先生方もわからないところがないか逐一確認してくださり、あればその都度丁寧に教えてくださいました。宿題の量はクラスによってさまざまですが、サークル活動などに参加しても十分終わらせられる量です。また月に一度校外学習の時間もあり、私たちはトリニティ・カレッジ内にある図書館とアビバスタジアムに行きました。特に図書館の方は、映画の舞台にもなっている場所ということだけあって、その迫力と大きさに圧倒されました。普段自分たちではなかなか行くことのできた場所を訪れることができたのでとてもいい思い出になっています。アイルランドでの3か月は本当にあっという間で、言語の壁を感じることも多々ありましたが、その分通じた時の喜びは大きく、自分の自信にも繋がりました。たくさんの人に出会い、様々な場所を訪れ、多くのことを学んだこの三か月、私にとっては忘れられない貴重な経験になりました。

### 【ホームステイ編】

2016 年度 UC ダブリン大学  
水谷 葉

私たちは留学の3ヶ月間をそれぞれのホームステイ先で過ごしました。通学時間や食事、家族構成、ルームメイトの有無など個々に違う環境の中、現地の生活や文化に触れる良い機会でした。私の場合は、大学からバスで15分ほどの場所で、50代のホストマザーと30代の娘、その子供の4歳の女の子の3人家族とともに生活をしていました。小さな女の子がいると事前に聞いていたので、お土産にうさぎの缶に入った金平糖やぬり絵を渡したところ、とても喜んでくれました。洗濯は週に一度ほどホストマザーにお願いしていました。朝食はシリアル、夕食はポテト、肉または魚、野菜がワンプレートで出てくるのが基本でした。食事は皆で取ることが多く、ホストファミリーと話す大事な時間でした。話の中で「日本ではどうなの？」と尋ねられ、分からず困ってしまうことが多々あったので、留学前に日本のことについても少し調べておくといいと思います。またホームステイをする上で、自分の考えを伝えることの大切さを感じました。11月になると夜冷え込むようになり、部屋やバスルームの寒さが辛くなりました。少し迷ったのちその事をホストファミリーに伝えると、快く暖房をつけてくれるようになりました。限られた時間とはいえ共に生活するので、「言わなくてもわかってもらえるだろう」「少しくらい我慢しよう」という考えではなく、小さな不安や疑問でも伝えることがお互いに気持ちよく過ごすために重要なことだと感じました。3ヶ月という短い間でしたが、素敵なホストファミリーと共に過ごした時間は一生忘れることのない宝物です。

## 【観光編】

2016 年度 UC ダブリン大学  
近藤 優樹

月～木曜日の 16 時以降と金曜日の 13 時以降の放課後、そして土日を自由に過ごすことができました。

その時間を私はホストファミリーや友達と過ごしたり、勉強したり、ゆっくりしたりして過ごしていました

授業のない金曜の午後から土日ははじめとして時間のゆとりのあるときには、アイルランド各地やヨーロッパ各国を観光することができました。

アイルランド北部に位置する世界遺産「ジャイアントコーズウェイ」、ダブリンに位置するアイルランドの文化を体感できる「シティセンター」。他にも友達と一緒に訪れたフランス、少し怖かったものの達成感を味わえた一人旅行など、沢山の楽しく充実した時間を過ごすことができました。

勉強を頑張っているとき、ホストファミリーや友達と過ごしているとき、現地の音楽を聴いたり食事を食べたりしているとき、観光をしているときなど。それらの全ての瞬間、それが一見何気なく見える瞬間だとしても、感じることや学べることがあったと確信しています。成長することのできた貴重な 3 ヶ月でした。



## フォントボン大学 SA プログラム体験記

### 【授業編】

#### 2016 年度フォントボン大学 高橋 進一

アメリカへ来て、すべてが初めてのなかで受けた授業はとても大変でしたが、とてもためになるものになり、自分の価値観を変えるきっかけともなりました。

私は ESL の科目を三つと正規科目を一つ履修していました。ESL の授業はリスニング、ライティング、スピーキングをとり、正規科目では Intercultural Communication という授業を受けました。ESL の科目は留学生用の授業で、インド、サウジアラビア、ブラジル、タイなどさまざまな国から留学生が来ていて、そのような環境の中で勉強できたことはこれからもなかなか経験できないものだと感じています。これらの ESL の授業はとても少人数でそこも日本との違いだと感じました。最後のテストがなく普段のプレゼンや授業態度、意欲などが重要になってくるので、宿題がなかなか多かったです。ライティングでは毎回先生から課題が出されて、それについて A 4 二枚ほどでエッセイを書いてきて提出するというのが多かった気がします。リスニングとスピーキングでは何回かに一回教科書の内容に沿って一人でプレゼンをしたり、他の生徒がおこなっているプレゼンを聴き取る練習などもしていました。また他の国からきている生徒たちは英語が話せるが、日本人よりも英語が書けなく、文法力がないと感じました。例えばあるサウジアラビアの生徒は play という単語を pley と書いていて理解するのに苦労した思い出があります。そこで日本と他の国との英語教育の違いを感じました。他の国はやはり文法やリーディングよりもとにかく英語を話すことに重点を置いているということを感じました。また発音においてもネイティブの先生と他国からきた留学生の英語の発音は

違うので、聴き取るのにとっても苦労したのを覚えています。また英語だけではなく他国の文化や宗教、価値観の違いなどもプレゼンを通して学ぶことができてとてもいい経験になりました。

正規科目の Intercultural Communication では私たち 4 人の日本人以外はすべてネイティブの生徒が履修している授業なので、ESL の授業と比べると、先生や他の生徒が英語を読むスピードがとても速くこれもまた聴き取るのに苦労しました。最初のほうの授業では毎回授業の終わりに先生のもとへ質問しにいったことが印象に残っています。この授業では国際的なコミュニケーションの取り方、さまざまな国のタブー、ボディランゲージ、宗教などを勉強して、一か月に一回くらいのペースでプレゼンがありました。また一回の授業が二時間半ととても長く週一回ですが、集中力が続かなくなった時もありました。しかし先生方がとても丁寧にひとりひとりに対応してくれたのでなんとか単位も無事取得することができました。この経験は日本では絶対に経験できないものだと思います。この留学を通して英語だけではなく価値観の違いやもっと大事なものを学べた気がして改めて行って良かったと今は感じています。

### 【授業編】

#### 2016 年度フォントボン大学 高畑 慎

フォントボン大学は小さい大学のため、生徒数も教員数も少ない大学です。そのためほとんどの授業が少人数でした。少人数の授業では、自分の意見をしっかりと述べることに重きをおいているため、毎回の授業はずっと集中する必要がありました。私は、アカデミックの授業を二つ（Intercultural Communication, American Popular Music）と ESL

の授業を三つ (Writing, Pronunciation, Project Learning) をとりました。アカデミックの授業は現地の大学生と同じ授業を受けることができるものです。この授業では先生の話すスピードや生徒の発言のスピードがESLの授業よりも早く、それに追いつくのに最初は必死でした。しかし、九月の後半あたりから徐々にそのスピードにも慣れてきて、何とか授業についていくことが出来るようになりました。また、教員の方々は私が不明な点や聞き取れなかったことを授業が終わった後に、もう一度教えてくれたりもしました。ESLの授業ではいろいろな国からきている留学生と一緒に授業を受け、英語の基本的な部分の勉強をする授業です。授業中にも様々な人と交流する機会がありましたが、授業以外にも自分の国のことを話したり、反対に相手の国のことを理解したりする機会が多かったため、多くの友達を作ることができました。時には、相手が言っていることが理解できなかつたり、自分の言いたいことがうまく言えなかつたりすることがありました。しかし、そのような経験からできるだけ多く英語を話し、失敗してもすぐに立ち直れるような積極性を身に着けることが出来ました。

授業の課題に関しては、授業によって大きく変わりますが、私がとった American Popular Music の課題には、二週間に一回、授業で行ったところから 100 問程度の問題が出され、それを翌週までに解いてくるというものがありました。そのため、この課題が出たときは、部屋ですべて問題を解いているという生活でした。しかし、この課題のおかげで授業をより深く理解でき、また Writing の力を向上させることが出来たように感じます。

フォントボン大学の授業はやる気がなかつたり、話を聞かなかつたりするとまったく意味のないものになってしまいます。授業についていくには、やはり英語の力よりもまず積極性を磨くことが大切だと私は感じました。

## 【寮生活編】

2016 年度フォントボン大学

中尾 貫太郎

私はフォントボン大学に留学中、キャンパス内にある寮に滞在していました。その寮は主に新入生が生活しており、私はアメリカの入学時期に合わせてフォントボン大学に入学したため、新入生という扱いで彼らとともに暮らしました。寮の構造としては、1階が共用スペースとなっており、テレビやソファが置いてあるラウンジや、共用のパソコンやコピー機、学習スペース、冷蔵庫、みんなで盛り上がることのできる卓球台などが置いてありました。そして、2階から4階が学生が暮らす部屋となっていました。部屋は主に2人部屋で、部屋の中にはベッド、勉強机、クローゼット、鏡、収納の引き出しなどがついており、2人部屋なので部屋の半分半分をルームメイトとシェアするという形でした。各階にシャワールームとトイレがついており、日本と違いアメリカには浴槽につかるという習慣がないので、シャワーのみで留学中お風呂に入ることはできませんでした。トイレも日本のようなものとは違い、アメリカのトイレはドアと隣のトイレとのしきりの下の部分が高いため、トイレをしている時常に膝下だけが外から見えるようになっています。また、この寮の男子トイレでは、全てのトイレが洋式となっていました。トイレとシャワールーム、寮全体のフロアは毎朝掃除担当の方が来て掃除をしてくださっていたので、比較的きれいに利用することができました。以上が私が留学中滞在した寮のおおまかな概要です。

次に、寮の中での暮らしについて述べたいと思います。留学中のほとんどの寮の中での時間を共有した私のルームメイトは、一つ年下のアメリカ人でした。彼はとても私と性格や趣味が合い、留学中なんの不満を抱えることなく過ごすことができました。時には私が取り組んでいた課題で分からない単語やその発音を教えてくれたり、課題に追われている私を見て、頑張りよとお菓子をくれたり、私が英語学

習の一環として、アメリカのドラマや映画を観たいと伝えると、彼のおすすめを細かく教えたりしてくれてとても優しく親切でした。また、彼はもともとアニメや漫画が大好きということもあって、日本人の私に興味を持って接してくれて、本当に素敵なルームメイトに恵まれました。

留学の中で、休息をしたり、睡眠をとったりと様々な生活の基盤となる行為をこの寮で行うことになると思います。ただ、課題が忙しいとは言っても絶対に睡眠時間は確保できますし、一日にフリーな時間はたくさんあるので、その時間を運動や外国人との交流の時間にあてることもできます。寮の中にいる人たちもみんなフレンドリーで英語がうまく話せなくても、なんとかして聞き取ってあげようという姿勢で接してくれます。ですので、留学当初は寮の設備やルームメイトのことなど様々な不安はありましたが、いま思うととても寮の中での生活は充実したものでした。

### 【観光編】

2016年度フォントボン大学  
中村 健人

基本的に大学の授業が1日に2コマぐらいしかないため今回の留学において授業よりも多い時間を過ごすと思われる放課後は寮や大学内の図書館で過ごすことが多かったです。放課後を課題やプレゼン発表のための準備などに時間を費やしそれでも時間がある時は映画を見たり体育館でバスケをしたりして過ごしたりしていました。他の国の人たちとスポーツをすることは国籍が違うことは関係なくどこの国でも熱くなり言葉や習慣などを超え交流を深めていけることを実感しました。

フォントボン大学の秋季SAではフォールブレイクとサンクスギビングの2回の大きな休みがありそれぞれの休みで旅行に出かけることができます。私はシカゴとニューヨークに旅行に行きました。どちらの旅行も自分の手でチケットや宿を手配したりする

ことにより自立性を確立させることが出来ました。私はアメリカのプロバスケットボールであるNBAのファンでありこの2つの旅行において3試合観戦しました。今までテレビで見ていたものが自分の目の前に広がって見えたとき大きな感動がありました。旅行では何個かのハプニングもあったがそれを自分たちの手だけで解決していくことによって自信を深めていきました。

日本とは違う文化に触れ他国の人たちと接するには忍耐や自分から理解しようとする姿勢が重要になってくることを理解しました。SAを通して自分の語学においてだけではなく精神的にも成長出来たように感じます。



## スタディ・アブロード・プログラムのサポート体制

### ●海外旅行総合保険●

SA プログラムの参加学生は、法政大学が指定する海外旅行総合保険に加入していただきます。現地でのケガや病気の時、あらかじめ指定された病院（キャッシュレス指定病院）で診察を受ければ、その場で自己負担することなく治療が受けられます。指定病院以外でも、領収書と診断書があれば、帰国後に一定の範囲内で保険金を受け取ることができます。歯科治療に関しては保険対象外で、その他にも保険対象範囲は定められています。詳しくは出発前の各種ガイダンスでお知らせします。

### ●24 時間対応の電話アシスタンスサービス●

#### ① 病気やケガの対応

現地で病気やケガの際には、現地大学スタッフや、寮、ホームステイの担当者に、病院を紹介してもらうことになります。しかし、外出先や遠出をしている際に、思わぬ事故や病気、ケガに見舞われる可能性もあります。そのようなときに、直接フリーダイヤルに電話すれば、近くの病院を探してくれたり、適切なアドバイスを受けることができます。

#### ② トラブルの対応

留学中にトラブルに見舞われたり悩み事などがある場合、通常は現地大学の担当スタッフが相談にのります。日本語で直接相談する必要がある場合は、SA ポータルサイトを利用して法政大学（学科の SA 担当教員、SA 担当および文学部事務担当職員）に連絡をとることができ、緊急の際には 24 時間対応の電話アシスタンスサービスを利用できる体制をとっています。

### ●SA ポータルサイト●

SA 留学期間中に、日本にいる法政大学の教職員に質問や相談がある場合、SA 担当に直接電話をかけることもできますが、国際電話代や、時差、窓口時間の関係上、難しいケースがあります。そのようなときは、SA ポータルサイトにアクセスして、問い合わせをしてください。出発前に SA 参加者全員に ID とパスワードを配布します。

なお、留学期間中、このポータルサイトを使用して、月例報告（秋学期 SA 参加者のみ）、旅行届を提出することが、SA 参加者の義務になっています。

### ●グローバル教育センターSA 担当●

SA 担当では、主に渡航関係、寮やホームステイなど現地での生活に関する事柄を中心に SA に参加する学生をサポートします。それ以外の SA 全般にかかわることについても相談にのりますので、SA に関して、質問や相談があるときは、気軽においでください。

### 問い合わせ先

#### 法政大学 SA 担当

〒102-8160

東京都千代田区富士見 2-17-1

（58 年館 2 階グローバル教育センター内）

Tel: 03-3264-9408 Fax: 03-3264-9256

E-mail: sapro@hosei.ac.jp

#### 法政大学 文学部

Tel: 03-3264-9325

#### 窓口時間

月～金 9:00～17:00（11:30～12:30 を除く）

土曜日 9:00～12:00

## 2017年度 英文SA単位読み替えに関するガイドライン

SAで取得した単位は以下のガイドラインに則って教授会において決定される。

### ① 認定単位数

- 1) SAで取得した単位は、年度ごとに22単位まで法政大学文学部英文学科専門科目の単位、またはILAC科目「English 3-II」として認定されることがある。
- 2) 認定される単位数は、授業時間数に応じて、所定の計算式に基づいて認定される。
- 3) ただし、音楽や美術の実習などの実技科目の単位については、2)で規定された単位数とSA先大学の単位数の両方を考慮して単位数が認定される【原則として2)で規定される単位数の6割程度】。

### ② 科目系列

- 1) 原則として選択必修B群の「SA認定科目(B)」として認定される。
- 2) 取得した科目の内容によっては、8単位を上限として選択必修A群の「SA認定科目(A)」として認定されることがある。申請する場合は、選択必修A群に該当すると考える根拠がわかるよう、授業内容についての説明も含めること。  
注) 特段の理由がない場合は4単位を上限とする。
- 3) 卒業論文に直接関連する科目として位置づけられている選択必修C群の「SA認定単位(C)」として認定されることはない。ただし、取得した科目が卒業論文に直接関連する科目であると指導教員が認定する場合にかぎって、選択必修C群として認定されることがある。
- 4) ILAC科目「English 3-II」も認定の対象となる。認定を希望する場合は、SA先で4技能(reading, writing, speaking, listening)が連動した英語科目の単位を取得すること。

以上